

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平10-152414

(43) 公開日 平成10年(1998) 6 月 9 日

(51) Int.Cl.<sup>6</sup>

A 6 1 K 7/027  
7/00

識別記号

F I

A 6 1 K 7/027  
7/00

C  
G

審査請求 未請求 請求項の数 3 F D (全 6 頁)

(21) 出願番号 特願平8-324789

(22) 出願日 平成 8 年 (1996) 11 月 20 日

(71) 出願人 000001959

株式会社資生堂  
東京都中央区銀座 7 丁目 5 番 5 号

(72) 発明者 篠島 哲

神奈川県横浜市港北区新羽町1050番地 株  
式会社資生堂第一リサーチセンター内

(72) 発明者 吉田 邦彦

神奈川県横浜市港北区新羽町1050番地 株  
式会社資生堂第一リサーチセンター内

(72) 発明者 南 孝司

神奈川県横浜市港北区新羽町1050番地 株  
式会社資生堂第一リサーチセンター内

(74) 代理人 弁理士 長谷川 洋子

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 口紅用組成物

(57) 【要約】

【課題】 唇への塗布後のにじみがなく、かつ良好な  
び、つやを持つ使用性に優れた口紅用組成物を提供す  
る。

【解決手段】 オキシ酸と脂肪族アルコールとのエステ  
ル化合物を 1 ～ 3 0 重量%と、マカデミアナッツ油脂  
酸コレステリルを 1 ～ 2 0 重量%配合してなる、口紅用  
組成物。

## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 オキシ酸と脂肪族アルコールとのエステル化合物を1～30重量%と、マカデミアナッツ油脂肪酸コレステリルを1～20重量%配合してなる、口紅用組成物。

【請求項2】 オキシ酸が炭素原子数14～22のオキシ酸である、請求項1記載の口紅用組成物。

【請求項3】 脂肪族アルコールが炭素原子数14～22の脂肪族アルコールである、請求項1または2記載の口紅用組成物。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は口紅用組成物に係り、特に、にじみ防止に優れるとともに、のびがあり、優れたつやを持つ口紅用組成物に関する。

## 【0002】

【従来の技術】口紅は一般にワックス、油分、色材等の粉体、香料等からなり、口唇に塗布することによって美しい色調、質感を提供するものである。また、美観の提供のみでなく、塗布時ののびやなめらかさ、つや、経時でのにじみ防止など、使用性についてもより優れた使用感の口紅が求められている。にじみの防止に関しては、従来、例えばにじみ防止用リップスティックを口紅塗布前に使用することによって対応していた。

## 【0003】

【発明が解決しようとする課題】一方では、口紅そのものににじみ防止といった機能の付与が強く望まれており、実際にそのような製品も発売されている。しかしながら、これらににじみ防止効果をもたせた口紅は、一般に他の使用性（のび、つや）において必ずしも満足すべき結果が得られていないという問題がある。

## 【0004】

【課題を解決するための手段】本発明者らは上記事情に鑑み、鋭意研究を重ねた結果、オキシ酸と脂肪族アルコールとのエステル化合物と、マカデミアナッツ油脂肪酸コレステリルとを組み合わせることで所定量配合することにより、唇への塗布後、経時でのにじみがなく、かつ良好なつや、つやを持つ使用性に優れた口紅用組成物が得られることを見出し、本発明を完成するに至った。

【0005】すなわち本発明は、オキシ酸と脂肪族アルコールとのエステル化合物を1～30重量%と、マカデミアナッツ油脂肪酸コレステリルを1～20重量%配合してなる口紅用組成物に関するものである。

## 【0006】

【発明の実施の形態】以下、本発明について詳述する。

【0007】本発明に用いられるオキシ酸と脂肪族アルコールとのエステル化合物の構成成分であるオキシ酸は、ヒドロキシ酸ともいい、1分子中にカルボキシル基（ $\text{—COOH}$ ）とアルコール性水酸基（ $\text{—OH}$ ）を持つ化合物をいう。本発明では炭素原子数14～22のオ

キシ酸が好適に用いられる。具体的には、オキシステアリン酸、リシノール酸等が好適なものとして例示される。これらオキシ酸は、1種だけを用いてもよく、あるいは2種以上を併せて用いてもよい。

【0008】脂肪族アルコールとしては、炭素原子数14～22の脂肪族アルコールが好適に用いられる。具体的には、セチルアルコール、ステアリルアルコール、イソステアリルアルコール、イソパルミチルアルコール、オレイルアルコール、ベヘニルアルコール等が好適なものとして例示される。これら脂肪族アルコールは、1種だけを用いてもよく、あるいは2種以上を併せて用いてもよい。

【0009】本発明では、これらオキシ酸と脂肪族アルコールの1種または2種以上を任意に組み合わせて、公知の手段によりエステル化し、オキシ酸と脂肪族アルコールとのエステル化合物を得る。これらエステル化合物としては、具体的にはオキシステアリン酸オレイル、リシノール酸イソパルミチル、リシノール酸オレイル、オキシステアリン酸イソステアリル等が例示される。

【0010】上記オキシ酸と脂肪族アルコールとのエステル化合物は、本発明口紅用組成物中、1～30重量%配合される。配合量が1重量%未満では本発明の十分な効果を得ることができず、一方、30重量%を超えて配合するとにじみ防止効果が低下してしまうので好ましくない。

【0011】本発明に用いられるマカデミアナッツ油脂肪酸コレステリルは、マカデミアナッツ油を加水分解して得られる脂肪酸とコレステリルアルコールとのエステル化合物である。エステル化は公知の手段により行うことができる。

【0012】マカデミアナッツ油脂肪酸コレステリルは、本発明口紅用組成物中、1～20重量%配合される。配合量が1重量%未満では本発明の十分な効果を得ることができず、一方、20重量%を超えて配合するとつやが重くなりすぎてしまうので好ましくない。

【0013】本発明ではさらに、本発明の効果を増大させる範囲で、口紅用組成物に通常用いられる液状油分、固形油分、粉体等が配合される。

【0014】液状油分としては、通常化粧品に用いられるものであれば特に限定されることがなく使用することができ、例えば、流動パラフィン、スクワラン、ラノリン誘導体、高級アルコール、各種エステル油、シリコン油、ポリアルキレングリコールポリエーテルおよびその他カルボン酸、オリゴエステル化合物、テルペン系炭化水素油等が挙げられる。なかでも流動パラフィン、スクワラン、シリコン油および各種エステル油等が好適に用いられる。これら液状油分は1種のみを用いてもよく、あるいは2種以上を組み合わせる用いてもよい。

【0015】上記液状油分の好適な配合量は、本発明組成物中20～70重量%であり、特に好ましくは30～

60重量%である。配合量が少な過ぎると処方構成上無理な場合があり、一方、配合量が多すぎると本発明の十分な効果が得られない場合がある。

【0016】固形油分としては、通常化粧品に用いられるものであれば特に限定されることなく使用することができ、例えば、セレシンワックス、カルナバワックス、ポリエチレンワックス、パラフィンワックス、キャンデリラワックス、マイクロクリスタリンワックス、ベヘニン酸、ベヘニルアルコール、モクロウ、ビーズワックス、セタノール等が挙げられる。これら固形油分は1種ののみを用いてもよく、あるいは2種以上を組み合わせ

用いてもよい。  
【0017】上記固形油分は、例えばスティック状(棒状)の口紅用組成物を製造する場合などは、保形剤として本発明組成物中5〜20重量%程度配合させるのが好ましい。

【0018】粉体としては、通常化粧品に用いられるものであれば特に限定されることなく使用することができ、例えば、タルク、カオリン、絹雲母(セリサイト)、白雲母、金雲母、合成雲母、紅雲母、黒雲母、リチア雲母、パーミキュライト、炭酸マグネシウム、炭酸カルシウム、ケイ酸アルミニウム、ケイ酸バリウム、ケイ酸カルシウム、ケイ酸マグネシウム、ケイ酸ストロンチウム、タングステン酸金属塩、マグネシウム、シリカ、ゼオライト、ベントナイト、硫酸バリウム、焼成硫酸カルシウム(焼石膏)、リン酸カルシウム、フッ素アパタイト、ヒドロキシアパタイト、セラミックパウダー、窒化ホウ素、二酸化チタン、酸化亜鉛などの無機粉末や、ポリアミド樹脂粉末、ナイロン粉末、ポリエチレン粉末、ポリプロピレン粉末、ポリエステル粉末、ポリメタクリル酸メチル粉末、ポリスチレン粉末、スチレンとアクリル酸の共重合体樹脂粉末、シリコーン樹脂粉末、ベンゾグアナミン樹脂粉末、ポリ四フッ化エチレン粉末、セルロース粉末などの有機粉末のほか、各種顔料等が挙げられる。

【0019】上記粉体の好適な配合量は、本発明組成物中1〜20重量%であり、特に好ましくは10〜20重量%である。配合量が少な過ぎると十分な色調が得られない場合があり、一方、配合量が多すぎると粉っぽくなる等、使用感触が悪化する場合がある。

【0020】なお、本発明の口紅用組成物には、上記成分の他、通常化粧品に配合される各種成分、例えば、アクリル系樹脂、シリコーン樹脂、ポリビニルピロリドン等の樹脂や、大豆タンパク、ゼラチン、コラーゲン、絹フィブロイン、エラスチン等のタンパク質またはタンパク質分解物、酸化防止剤、紫外線吸収剤、紫外線遮蔽剤、界面活性剤、防腐剤、保湿剤、薬剤、染料、香料等を配合することができる。

【0021】

【実施例】次に、実施例により本発明をさらに詳細に説

明するが、本発明はこれによってなんら限定されるものでない。なお、配合量は特に指定がない限り、重量%で示す。

【0022】下記の表1に示す各実施例、比較例の組成のスティック状口紅用組成物を常法により調製し、これを試料として用い、下記評価基準に従ってのび、つや、塗布後のにじみの評価を行った。

【0023】[のび] 専門パネル(15名)に各実施例、比較例の口紅用組成物(試料)を使用してもらい、官能で5段階評価(総合評価)し、その平均値で評価した。

<評価基準>

- 1: のびが悪い(重い)
- 2: のびがやや悪い(やや重い)
- 3: のびが普通
- 4: のびがややよい(やや軽い)
- 5: のびがよい(軽い)

(評価)

◎: 評価値(平均値) 4.5以上5.0まで

○: 評価値(平均値) 3.5以上4.5未満

△: 評価値(平均値) 2.5以上3.5未満

×: 評価値(平均値) 1.5以上2.5未満

××: 評価値(平均値) 1.0以上1.5未満

[つや] 専門パネル(15名)に各実施例、比較例の口紅用組成物(試料)を使用してもらい、官能で5段階評価(総合評価)し、その平均値で評価した。

<評価基準>

- 1: つやがない
- 2: つやがややない
- 3: つやが普通
- 4: つやがややある
- 5: つやがある

(評価)

◎: 評価値(平均値) 4.5以上5.0まで

○: 評価値(平均値) 3.5以上4.5未満

△: 評価値(平均値) 2.5以上3.5未満

×: 評価値(平均値) 1.5以上2.5未満

××: 評価値(平均値) 1.0以上1.5未満

[塗布後のにじみ] 専門パネル(15名)に各実施例、比較例の口紅用組成物(試料)を使用してもらい、塗布後2時間経過後、官能で5段階評価(総合評価)し、その平均値で評価した。

<評価基準>

- 1: にじみを生じた
- 2: ややにじみを生じた
- 3: にじみが普通
- 4: あまりにじみを生じなかった
- 5: にじみを生じなかった

(評価)

◎: 評価値(平均値) 4.5以上5.0まで

(4)

特開平10-152414

5

6

○： 評価値（平均値）3.5以上4.5未満

\*（実施例1～2、比較例1～13）スティック状口紅用組成物

△： 評価値（平均値）2.5以上3.5未満

【0024】

×： 評価値（平均値）1.5以上2.5未満

\* 【表1】

××： 評価値（平均値）1.0以上1.5未満

	比較 例1	比較 例2	比較 例3	比較 例4	比較 例5	比較 例6	実施 例1	実施 例2	比較 例7	比較 例8	比較 例9	比較 例10	比較 例11	比較 例12	比較 例13
セレシンワックス	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15
ラウリン酸ステアシル	20	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ミリスチン酸オクチル	—	20	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
オキシステアリン酸 イソステアシル	—	—	10	20	30	40	20	20	20	—	20	20	20	—	—
液状ラノリン	—	—	—	—	—	—	—	—	—	20	20	—	—	—	—
マカデミアナッツ油 脂肪酸コレステリル	—	—	—	—	—	—	10	20	30	—	—	—	—	10	10
流動パラフィン	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
マイカ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	10	—	10	—
硫酸バリウム	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	10	—	10
赤色202号	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
赤色酸化鉄	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
ヒマシ油	45	45	55	45	35	25	35	25	15	45	25	35	35	45	45
評 価	のび	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	△	◎	◎	△	△	△
	つや	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	○
	塗布後のにじみ	○	○	△	△	△	△	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

【0025】表1の結果から明らかなように、本発明の ※いても良好であった。

処方ではのび、つや、塗布後のにじみ防止のいずれにお※ 【0026】

（実施例3）スティック状口紅用組成物

（配合成分）

（重量％）

セレシンワックス	15
グリセリルトリオクタノエート	25
重質流動パラフィン	10
マカデミアナッツ油脂肪酸コレステリル	10
グリセリルジイソステアレート	20
オキシステアリン酸イソステアシル	10
顔料	10
酸化防止剤	適量
紫外線吸収剤	適量
香料	適量

（評価）実施例3で得たスティック状口紅用組成物を、 ★にじみ：◎であった。

上記評価基準に従って、のび、つや、塗布後のにじみに 【0027】

ついて評価したところ、のび：○、つや：◎、塗布後の★

（実施例4）スティック状口紅用組成物

（配合成分）

（重量％）

セレシンワックス	8
キャンデリラワックス	2
ポリエチレンワックス	4
マイクロクリスタリンワックス	1
マカデミアナッツオイル	10
グリセリルジイソステアレート	10
スクワラン	10
リシノール酸イソパルミチル	20
トリイソパルミチン酸グリセリル	10

(5)

特開平10-152414

7

8

マカデミアナッツ油脂肪酸コレステリル	10
顔料	10
パール剤	5
酸化防止剤	適量
紫外線吸収剤	適量
香料	適量

(評価) 実施例4で得たスティック状口紅用組成物を、\*にじみ：◎であった。

上記評価基準に従って、のび、つや、塗布後のにじみに【0028】

について評価したところ、のび：○、つや：○、塗布後の\*

(実施例5) 乳化型スティック状口紅用組成物

(配合成分)	(重量%)
セレシンワックス	5
ポリエチレンワックス	8
マイクロクリスタリンワックス	2
グリセリルジイソステアレート	28
流動パラフィン	25
オキシステアリン酸イソステアリル	1
ジメチルポリシロキサン(ポリオキシエチレン)共重合体	0.5
精製水	1
グリセリン	0.5
顔料	10
パール剤	5
グリセリンジイソステアレート	13
マカデミアナッツ油脂肪酸コレステリル	1
酸化防止剤	適量
紫外線吸収剤	適量
香料	適量

(評価) 実施例5で得た乳化型スティック状口紅用組成物 ※布後のにじみ：◎であった。

物を、上記評価基準に従って、のび、つや、塗布後のに【0029】

じみについて評価したところ、のび：○、つや：◎、塗※30

(実施例6) スティック状口紅用組成

(配合成分)	(重量%)
セレシンワックス	10
キャンデリラワックス	2
オキシステアリン酸ベヘニル	15
マカデミアナッツ油脂肪酸コレステリル	15
流動パラフィン	10
グリセリルトリオクオノエート	20
グリセロールジイソステアレート	10
シリカ	2
マイカ	6
顔料	10
酸化防止剤	適量
紫外線吸収剤	適量
香料	適量

(評価) 実施例6で得たスティック状口紅用組成物を、★にじみ：◎であった。

上記評価基準に従って、のび、つや、塗布後のにじみに【0030】

について評価したところ、のび：○、つや：◎、塗布後の★

(実施例7) 液状口紅用組成物

(配合成分)	(重量%)
--------	-------

(6)

特開平10-152414

9	10
セレシンワックス	2
シリコーン油	0.5
有機粘土鉱物	1
オキシステアリン酸イソステアリル	15
マカデミアナッツ脂肪酸コレステリル	10
スクワラン	20
流動パラフィン	10
グリセロールジイソステアレート	31.5
顔料	10
酸化防止剤	適量
紫外線防止剤	適量
香料	適量

〔評価〕実施例7で得た液状口紅用組成物を、上記評価基準に従って、のび、つや、塗布後のにじみについて評価したところ、のび：○、つや：◎、塗布後のにじみ：◎であった。

【0031】

【発明の効果】以上説明したように、本発明によれば、\*

\* オキシ酸と脂肪族アルコールとのエステル化合物とマカデミアナッツ脂肪酸コレステリルとを組み合わせることで所定量配合することにより、塗布時のつやを低下させることなく、のびが良好で、にじみを防止し得る、使用性に優れた口紅用組成物が提供される。

フロントページの続き

(72)発明者 曾山 美和

神奈川県横浜市港北区新羽町1050番地 株  
式会社資生堂第一リサーチセンター内